

ものであるが、章ごとのばらつきがあるものの全体としては初等レベルを越えてしまっているの、これを読めば全く宇宙論を知らない人でも現在の宇宙論を理解できるとは思えない。やはりこの本を読む前には Wienberg の “Gravitation and Cosmology” 等の教科書で基礎的なことを勉強しなければならないであろう。

逆にこの本のように程度の高い教科書は現時点での宇宙論の全体像を知りたいと思う天文学者にとっては役に立つ本であるといえる。宇宙論は要するにこの宇宙がどうやって出来てきたかとか宇宙の大局的姿はどうかなどを研究する学問であるから、宇宙論を専門としない天文学者でも素養として知っておくべきことと考えられるが、残念ながら宇宙論を苦手とする人は多い。その原因はこの分野が最近爆発的に進歩したためでもあろうがそれ以上に少数の観測事実に基づいた分野でもあるため、新しい観測事実がでると大きく変化してしまうからであろう。多くの天文学者にとって宇宙論は全体像の掴み難い分野である。したがって、この本のような宇宙論の現状のレビューは待ち望んだものであろう。

全体として式の間違いも少なく文章も読み易い、内容はまさに宇宙論の現状なので内容が古くならないうちに早く読むべきであろう。

ところでこの本のように日本でも大先生の退官を記念して活躍してきた分野の現状のまとめの出版を慣例化したら如何であろうか、大先生の退官のたび良いレビューが手にはいることは若者にとっては大きな喜びとなる。

(坪井昌人)

☆
☆ ☆ ☆
☆

1988年12月の太陽黒点 (g, f) (国立天文台)

1	8,	121	11	12,	98	21	11,	239	
2	9,	106	12	13,	125	22	16,	219	
3	9,	95	13	—,	—	23	15,	202	
4	7,	91	14	17,	188	24	16,	166	
5	10,	88	15	16,	174	25	13,	124	
6	12,	92	16	14,	201	26	15,	215	
7	13,	91	17	13,	214	27	10,	196	
8	11,	68	18	12,	288	28	11,	208	
9	10,	86	19	16,	252	29	15,	228	
10	12,	74	20	11,	250	30	12,	108	
(相対数月平均値: 168.4)							31	10,	124

◇ 3月の天文暦 ◇

日	時	分	記	事
1	5	08	下弦	
5	23	34	啓蟄	(太陽黄経 345°)
8	3	19	朔	
8	16	51	月	最近
14	19	11	上弦	
21	0	28	春分	(太陽黄経 0°)
22	18	58	望	
23	3	21	月	最遠
26	7	25	天王星	西矩
30	19	21	下弦	

